

# 古代への招待状

## 埋もれていた遺産

58

縄文時代は1万年と長く、出土する遺物も多種多様です。中でも謎が多く、また興味深い遺物に土偶がありま

す。土偶は人や動物を表現した土製品(焼き物)です。では当時、土偶が作られた理由は何なのでしょうか。

中野市姥ヶ沢(うばがさわ)遺跡から全体像がよく分かる土偶が出土しています。高さ19センチ、幅12・5センチ、重さは485グラム。全体に丁寧に成形され、内部は空洞ではなく、両手に載せるとずっしりとした重量感があります。土偶は女性を表していることが多く、この土偶も乳房の表現、安産型ともいえる安定した下半身、ゆったりと膨らんだおなかの様子から、妊娠中または出産を終えた女性、つまり「母親」がモデルであると考えられます。そしてもう一つの特

### 信仰・土偶

徴は、「立つ土偶」であることです。下半身に重心を置き、足の裏

意識的なものなのでしょうか。体は板状で両手は真つすく真横に伸

## 多くは女性がモデル 儀式で壊して埋めた?

は平らに成形されています。立たせてみると少しだけ左に傾くのは

ばしています。顔には目とまゆ、口が表現され、頭のとっぺんが平らなことから「河童(かつぼ)形土偶」という、面白い名称で呼

代中期に東北、北陸地方から中部高地で作られました。そのうち全体像が分かる例は全国で十数例しかありませんが、どれも自立しま



姥ヶ沢遺跡の土偶(中野市歴史民俗資料館所蔵 撮影||柳澤)

ばれています。

実は国宝である茅野市棚畑遺跡出土の「縄文のビーナス」も河童形土偶のグループに入ります。

河童形土偶は縄文時

に壊れて出土する例が多く、姥ヶ沢の土偶も30センチ四方の範囲から3つに分かれて出土していました。破片は見つかっても、それ以外の

たりしたのではないかと考えられています。00(平成12)年、長野市北部にある檀田(まゆみだ)遺跡から頭部と右腕、脚部が欠



檀田遺跡の土偶出土状況(長野市埋蔵文化財センター提供)

部分が全く見つからない例が全国でたくさん報告されています。このことから、土偶を儀式でわざと壊してばら

けた、長さ15・5センチの河童形土偶が出土しました。善光寺平でこれほど大きな土偶が出土したのは初めてのことでした。この土偶は住

居跡から出土し、同じ住居跡の穴から琥珀(こはく)の玉や、特殊な土器(有孔鏝付土器)を埋蔵した穴が見つかるなど、土偶を用いた祭事者のような人物が暮らした住居の可能性を示す貴重な出土例になりました。

静かな表情をした姥ヶ沢土偶はどのような場面で立っていたのでしょうか。胴体だけが出土した檀田土偶はどのように使われたのでしょうか。いまだ謎は解けません。先人の心と祈りに触れるにはこうした土偶たちを丹念に観察していくしかないのです。

柳澤亮・泉理蔵文化財センター調査研究員